

2019年度 学校経営計画及び学校評価

1 教育目標

<p>2023基本構想(第2次・中期計画) 学園理念〈夢と高い志、挑戦、そして、未来創造〉 教育理念「高い知性、強靱な気力、豊かな情操の育成」 ～自らの能力や個性を生かし、創造的に生きることによって、社会に貢献し世界で活躍する人材を育成する～</p> <p>○目指す学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験に対応できる学力を育み、内部進学から難関国私立中学校まで幅広い進路選択が可能な学校</li> <li>・個性を大切に、将来社会に出て必要とされる様々な力の基礎を育む学校</li> <li>・初等教育機関として社会的評価を有する学校</li> </ul> <p>○育てたい児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人々との共生と協働の道を探求し、社会で活躍できる子ども</li> <li>・社会の変化に柔軟に対応できる素地を持つ子ども</li> <li>・人間形成の基盤となる豊かな心を持つ子ども</li> <li>・夢を抱き、その実現に向けて取り組もうとする知的エネルギーをもつ子ども</li> </ul> <p>○教育の特色</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きく」こと、「聴き合う」ことを大切に「グループ・ペア学習」を基盤として、「確かな学力」を身に付けるために、深い学びを実現するアクティブラーニング</li> <li>・英語力とコミュニケーション力が身につく充実した「英語教育」「国際教育」</li> <li>・全学年を通して、創造的活動を展開する「サイエンス教育」「教科等横断的教育」(環境・エネルギー教育を含む)</li> <li>・様々なひと・もの・ことにかかわる、豊かな心の教育</li> <li>・一人ひとりの能力に応じ、より高い学力を身に付けるための発展的学習</li> </ul>
--

2 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成</li> <li>2. 社会の変化に柔軟に対応できる力の素地の養成(主体性、多様性、協働性、学びに向かう力、人間性等)</li> <li>3. 豊かな心の育成</li> <li>4. 英語教育の充実</li> <li>5. はつしばサイエンスの充実・深化</li> <li>6. 支持基盤の確立</li> <li>7. 安定した学校運営</li> </ol>
---

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>①出願110名、入学者数90名(前年比2名増)と定員を確保した。女子入学者数が10名増加した。インターナショナル系幼稚園からの入学者が20名となり過去最高である。英語教育への期待感が大きい。</p> <p>②12期生(89名)の中学受験結果は内部系列中学校への進学者42名で内部進学率は、前年度より上昇した。外部難関中学校への進学では、灘中学校1名合格は3年ぶりであった。また、四天王寺中学校は受験者全員が合格した。</p> <p>③保護者アンケートは、肯定的評価(あてはまる・ややあてはまる)90%以上のものが18項目あった。前年度比でポイントが上昇している項目は10項目であった。ほとんどが、80%の肯定的評価であるが、結果を真摯に受け止め、検証をしたのち改善できるところはしていきたい。</p>	<p>①委員会の体制 地域代表者(南校区自治連合会会長) 保護者代表(保護者会役員) 学識経験者(大学教授)</p> <p>②委員会の実施日 第1回 2019年7月17日 第2回 2020年3月18日</p> <p>③自己評価の結果に対する評価 ・地域に愛される学校を望んでいる。小学校の子はよく挨拶してくれる。 ・小学校に通っている子の満足度は高いのだろう。その結果が入学者増加につながっているのではないか。 ・学校の存続には、学校長をトップに教職員が同じ絵を見ているかが大切であり、はつしばではその絵が見えてきている。 ・保護者として、学力をはじめ、しつけなども丁寧に教えてもらっている。 ・校内で問題があっても対応しているところがよいと思う。</p>

4 本年度の取り組み

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学力推移データ等に基づく現状分析と課題の整理</li> <li>(2) 授業内容の改善・充実</li> <li>(3) 進路指導体制の再編</li> <li>(4) 内部中学校と連携した学力検証の仕組みづくり</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 到達度テストの学年別現状分析・課題の継続検証 ・改善内容の整理、計画をした上での実施</li> <li>(2) 校内研の充実 ・学年研、教科研の連携のもと個々の授業レベル向上</li> <li>(3) 習熟度別学習(高学年)の課題整理 ・低学年から受験を意識した指導体制の研究実践</li> <li>(4) 内部中学校のプレテストや入試問題の研究 ・到達度テストを充実させ、個々の学力向上 ・子どもの学校生活状況を系列中学校に連絡し共有。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 内部進学率及び難関中学校の合格実績の向上</li> <li>(2) 実施計画通りの校内研の実施</li> <li>(3) 到達度テストを全学年で実施し、授業改善に活かす</li> <li>(4) プレテストの積極的受験や入試対策の充実</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 内部進学率は上昇した。難関中学校の合格率は微減。灘中学校へは1名合格進学者がでた。</li> <li>(2) 校内研修、校内研究授業共に計画通りに実施できた。加えて、新任研修を各学期行うことができた。</li> <li>(3) 到達度テストは予定通り実施し、事後検証を学年・教科で行うことができた。課題については次年度の目標に反映する。</li> <li>(4) プレテストの受験率は向上し、入試対策については高学年で計画的に実施した。個々の学力向上のため補習を行った。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの進学希望を叶えるための進路指導</li> <li>・確かな学力形成のために国語科(特に「書く」力)の強化</li> <li>・系列中学校と連携した内部進学率向上のための体制強化</li> <li>・通知表(学校生活)の数値化したものを内部判定資料の加えた進学体制の構築</li> </ul>
2 社会の変化に対応できる柔軟な変化	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「グループ・ペア学習」の深化</li> <li>(2) 宿泊体験学習の充実</li> <li>(3) プログラミング学習</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学年研、教科研の計画実施</li> <li>(2) 宿泊活動実施後の検証・改善 ・児童会活動の充実に向けた環境整備</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「全国学力学習状況調査」の結果(得点率)上昇</li> <li>(2) 学校評価アンケートの満足度上昇</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全国学力学習状況調査の結果は全国平均を上回った。</li> <li>(2) 学校評価(保護者)アンケートについては一定の評価は得てい</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グループ・ペア学習」での質の向上を目指し、その結果学力向上が計</li> </ul>

	の実践	(3)プログラミング教育実施に向けての実践と研修及び内容検討 ・各教科における単元ごとの学習計画表の作成 (4)新任教員の研修と実践研究	(3)プログラミング教育の実践方針が策定できたか (4)計画通りに実施できたか	るが、課題はあると認識している。 (3)プログラミング教育については、校内実践と教員研修などを重ね、教科の中でプログラミング的思考の育成を目指した授業を行うことで方針を決定。 (4)学期ごとに研修、研究授業を行うことができた。	れるようにする。 ・プログラミング教育の計画的実施と大学教授と連携した研修を継続しカリキュラムマネジメントを意識した授業実践
3 豊かな心の育成	(1)あたり前のことをあたり前にする心(思いやり・自主自律・公正公平・勤勉など)の育成 (2)児童支援体制の整備	(1)道徳部会を核とした授業実践研究、評価のあり方検討 ・自問清掃の見直しと改善(振り返りノート)の導入と道徳との連携 (2)教育相談体制の充実 ・メンタルサポート会議を中心とした教員間の情報共有 ・スクールカウンセラーと連携し、学校・保護者の共通理解を図る ・学校の取組みを保護者へ周知する ・いじめを早期発見・解決するための仕組みづくり	(1)計画通りに実施できたか ・振り返りノートの記入で心の変容をみることができたか (2)学校評価(保護者)アンケートの満足度上昇 ・教育相談、メンタルサポート会議等が計画通りに実施できたか ・いじめの早期発見・解決を可能にできたか	(1)研究授業を実施、検討会を行った。評価の仕方について教員で共有することができた。 (2)学校評価(保護者)アンケートの項目で上昇があった。また、その結果を学校だよりで公表した。 ・外部業者によるアンケート調査を実施し、子どもの学級での様子を客観的に評価し、学年団で共有し児童理解にあてることができた。	・道徳教育の一層の充実。自己の振り返りを重視し啓発する ・教育相談を継続し、外部人材を登用し支援を受け、児童理解を深める ・児童へのアンケート項目等を見直し・改善を図る
4 英語教育の充実	(1)英語教科化を踏まえた指導目標・学習内容の体系化 (2)授業の充実 (3)上位層を伸ばす仕組みづくり (4)英語力の検証システムの構築	(1)4技能をバランスよく育成する英語教育を目指す ・朝の活動を活用した英語力の養成 (2)授業の充実 ・新教材「GrapeSEED」の実践と検証 ・「読む」「書く」活動を取り入れた授業の実践 ・オールイングリッシュでの授業実践の徹底 (3)校内国際交流プログラムの充実 ・日本文化発信のための琴の体験授業導入 (4)英語力の検証システムの構築 ・英検受験奨励計画と受験者増 ・学校評価アンケートの項目の見直し	(1)英語4技能をバランスよく育成できたか (2)授業は充実していたか ・「GrapeSEED」カリキュラムを有効に実践できたか ・「読む」「書く」活動は取り入れたか ・オールイングリッシュでの授業実践はできたか (3)校内国際交流プログラムは計画通りできたか ・琴の体験授業は計画通りできたか (4)英検の受験者数並びに取得率は上昇したか	(1)低学年から「読む」活動を取り入れ、1年の後半から「書く」活動を取り入れることができた。中学年は4技能のバランスを考えて取り入れることができた。 (2)低学年の「GrapeSEED」は歌やアクティビティを多く取り入れ楽しく実践できた。 ・中学年では朝の活動で「読む」「書く」活動が定着した。 ・ネイティブによるオールイングリッシュの授業ができた。 (3)3年生以上で大阪大学・桃山学院大学の留学生との交流活動ができた。その結果、異文化に興味関心が高まった児童が増えた。 ・琴を購入し、3年以上で専門の講師による活動を行った。 ・6年は、自ら学習した内容をオールイングリッシュで発表することができた。 (4)受験者数、取得率共に上昇した。今後は上位層の受検率上昇が課題。	・「GrapeSEED」による授業の質的向上を目指す ・ネイティブ講師と日本人コーディネーターの連携を活かし目標達成を図る ・国際理解教育推進のため、留学生との交流活動の充実を図る ・英検の受験者数増加を図る ・TOEFL Primaryを導入し3年以上で受験 ・クラブ活動に琴を加え、外国人訪問時に発表できるようにする
5 はつしばサイエンスの充実・深化	(1)理科に関心を持つ心の育成	・中学受験に対応した学習支援(6年) ・学校評価アンケートの上昇 ・理科担当教員の授業力向上 ・「はつしばサイエンス」の見直し ・校内到達度テストの検証、得点力向上	・計画通りに実施できたか ・学校評価アンケートの上昇があったか ・理科部会を定期的に行うことができたか ・生活科のカリキュラムを見直し理科を意識した授業が行えたか ・到達度テストの得点力向上を目指した補習ができたか	・6年夏季学習会で理科担当者の補習を実施した。その結果、駿々堂学力テストの点数が上昇。 ・理科部会の次年度の課題として、1年から6年まで継続した取り組みになるようにする。また、授業力の向上を目指して定期的に研修を行う必要がある。 ・到達目標に沿って、授業の中で確かな学力の育成を目指す。	・教科部会の充実を図り、担当者全員の授業力向上をめざす ・1年から6年までの全学年を見通したカリキュラムの充実
6 支持基盤の確立	(1)「成人の集い」の継続 (2)卒業生への連携強化 (3)保護者会との連携と支援体制の強化	・「第4回成人の集い」の継続開催 ・卒業生交流サイトの構築と活用の検討 ・卒業生の進学並びに進学後の追跡調査 ・「おやじの会」の継続並びに連携強化	・「第4回成人の集い」の参加者は卒業生の約6割が参加したか ・卒業生交流サイトは構築できたか ・卒業生の進学先並びに追跡調査はできたか ・「おやじの会」は活動を継続し行ったか	・「第4回成人の集い」を行い、79名の参加(参加率64.2%)であった。 ・卒業生交流サイトは、卒業生から構築してほしいとの声があり、課題を残す。 ・卒業生の追跡調査は少しずつ進んでいる。 ・「おやじの会」は保護者会主催で計画的に運営できた。保護者同士のネットワークが広がり好評価。	・「成人の集い」の継続実施 ・「卒業生交流サイト」の構築検討 ・保護者会と連携し、「おやじの会」の一層充実を図る ・保護者同士のネットワーク強化と共に学校支援体制の強化連携を図る
7 た安定し 営学校運	(1)募集定員(90名)の確保 ・訪問地域・訪問幼児教室等の重点化	・松原市、和泉市への働きかけの強化並びに近隣市町村の訪問の重点化 ・幼児教室との連携強化 ・外部での説明会の内容検討及び校	・重点地域への募集活動強化ができたか ・園や幼児教室と連携した外部での説明会等が	(1)2020年度入学児童は90名で定員を確保することができた。 ・和泉地域の説明会参加者は上昇、	・訪問地域にあわせた募集活動の工夫 ・ホームページのリ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集行事や外部説明会の参加者数増加</li> <li>・広報活動の積極的展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内説明会等への誘導強化</li> <li>・校内説明会の内容の工夫と目的の明確化</li> <li>・説明会の参加についてWEB申込みシステムの導入</li> <li>・学校案内のリニューアル</li> <li>・はつしば学園幼稚園との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施できたか</li> <li>・校内説明会の内容を工夫し、さらにWEB申込み導入などにより、入学希望者の参加が上昇したか</li> <li>・学校案内からホームページに誘導できたか</li> <li>・はつしば学園小学校の連携が計画通りに実施できたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松原地区は微減であった。</li> <li>・2020年度より松原駅にスクールバスを運行することを決定。</li> <li>・子育て講演会を5回実施し、広く本校に興味を持ってもらうことができ、好評であった。</li> <li>・学校案内はリニューアルし好評であった。次年度、ホームページの全面リニューアルを計画。</li> <li>・はつしば学園幼稚園との連携活動は予定通り実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルによる小学校の効果的な宣伝を目指す</li> <li>・施設改修(6号館ホール)による募集効果検討</li> <li>・はつしば学園幼稚園との英語教育([GrapeSEED])の連携を活かした内部進学促進を図る</li> </ul>
---	---	---	--	--